

★当ファンドの仕組みは次の通りです。

商品分類	単位型投信／海外／債券	
信託期間	約5年間（2014年3月31日～2019年3月22日）	
運用方針	安定した収益の確保と信託財産の着実な成長をめざして運用を行ないます。	
主要投資対象	ベビーファンド	ダイワ外貨建て海外社債マザーファンドの受益証券
	ダイワ外貨建て海外社債マザーファンド	米ドル、ユーロおよび豪ドル建ての社債等
マザーファンドの運用方法	<p>①主として、海外企業が発行する外貨建ての社債等に投資することにより、安定した収益の確保と信託財産の着実な成長をめざして運用を行ないます。</p> <p>②運用にあたっては、以下の点に留意します。</p> <p>イ. 投資対象は、主として海外企業が発行する米ドル、ユーロおよび豪ドル建ての社債等とします。</p> <p>ロ. 流動性を確保するため、米ドル、ユーロおよび豪ドル建ての国債、州債およびコマーシャル・ペーパー等に投資することがあります。</p> <p>ハ. 債券の格付けは、取得時においてBBB格相当以上（ムーディーズでBaa3以上またはS&PでBBB-以上もしくはフィッチでBBB-以上）とします。</p> <p>ニ. 金利リスク対応のため、米ドル、ユーロおよび豪ドル建ての債券先物取引を利用することがあります。</p> <p>③為替変動リスクを回避するための為替ヘッジは原則として行ないません。</p> <p>※ベビーファンド「為替ヘッジあり」においては、保有実質外貨建資産について、為替変動リスクを低減するため、為替ヘッジを行ないません。</p>	
組入制限	ベビーファンドのマザーファンド組入上限比率	無制限
	マザーファンドの株式組入上限比率	純資産総額の10%以下
分配方針	<p>分配対象額は、元本超過額または経費控除後の配当等収益のうちいずれが多い額とし、原則として、経費控除後の配当等収益の中から分配することをめざします。ただし、基準価額の水準等を勘案し、元本超過額も含めて分配を行なうことがあります。なお、分配対象額が少額の場合には、分配を行わないことがあります。</p>	

当ファンドは、ファミリーファンド方式で運用を行ないます。ファミリーファンド方式とは、受益者からの資金をまとめてベビーファンド（当ファンド）とし、その資金を主としてマザーファンドの受益証券に投資して、実質的な運用をマザーファンドで行なう仕組みです。

ダイワ外貨建て海外社債ファンド 2014-03 (為替ヘッジあり／為替ヘッジなし)

運用報告書(全体版) 第8期 (決算日 2018年3月22日)

受益者のみなさまへ

毎々、格別のご愛顧にあずかり厚くお礼申し上げます。

さて、「ダイワ外貨建て海外社債ファンド2014-03（為替ヘッジあり／為替ヘッジなし）」は、このたび、第8期の決算を行ないました。

ここに、期中の運用状況をご報告申し上げます。

今後とも一層のお引立てを賜りますよう、お願い申し上げます。

大和投資信託

Daiwa Asset Management

東京都千代田区丸の内一丁目9番1号
お問い合わせ先（コールセンター）
TEL 0120-106212
(営業日の9:00～17:00)
<http://www.daiwa-am.co.jp/>

<2680>
<2681>

為替ヘッジあり

設定以来の運用実績

決算期	基準価額				受益者 利益回り	公社債 組入比率	債券先物 比率	元本 残存率
	(分配落)	税込 分配 金	期中 騰落 額	期中 騰落 率				
設定 (2014年3月31日)	円 10,000	円 —	円 —	% —	% —	% —	% —	% 100.0
1期末 (2014年9月22日)	10,140	110	250	2.5	5.2	101.8	—	98.6
2期末 (2015年3月23日)	10,237	160	257	2.5	5.2	98.0	—	72.0
3期末 (2015年9月24日)	9,950	100	△ 187	△ 1.8	2.2	96.4	—	66.2
4期末 (2016年3月22日)	9,908	100	58	0.6	1.9	94.8	—	57.8
5期末 (2016年9月23日)	10,057	120	269	2.7	2.6	92.8	—	50.7
6期末 (2017年3月22日)	9,718	100	△ 239	△ 2.4	1.4	95.7	—	47.3
7期末 (2017年9月22日)	9,791	100	173	1.8	1.7	98.1	—	38.4
8期末 (2018年3月22日)	9,431	100	△ 260	△ 2.7	0.8	94.8	—	36.2

(注1) 基準価額の騰落額および騰落率は分配金込み。

(注2) 公社債および債券先物の組入比率は、マザーファンドの組入比率を当ファンドベースに換算したものを含みます。

(注3) 公社債組入比率は新株予約権付社債券(転換社債券)を除きます。

(注4) 債券先物比率は買建比率-売建比率です。

(注5) 当ファンドは、ファンドの運用方針に対して適切な比較指数がないため、ベンチマークおよび参考指数を記載しておりません。



運用経過

基準価額等の推移について



(注) 期末の基準価額は分配金込みです。

■ 基準価額・騰落率

期首：9,791円

期末：9,431円 (分配金100円)

騰落率：△2.7% (分配金込み)

■ 基準価額の変動要因

「ダイワ外貨建て海外社債マザーファンド」の受益証券を通じて、主として海外企業が発行する外貨建ての社債に投資し、為替変動リスクを低減するため、為替ヘッジを行なった結果、保有債券からの利息収入はプラスに寄与しましたが、社債金利の上昇（債券価格の下落）などを反映し、基準価額は下落しました。くわしくは「投資環境について」をご参照ください。

ダイワ外貨建て海外社債ファンド2014-03 (為替ヘッジあり)

年 月 日	基 準 価 額		公 社 債 率 組 入 比	債 券 先 物 率 比
	円	騰 落 率 %		
(期 首) 2017年 9月22日	9,791	—	98.1	—
9月末	9,804	0.1	98.8	—
10月末	9,834	0.4	97.9	—
11月末	9,800	0.1	95.7	—
12月末	9,786	△ 0.1	97.7	—
2018年 1月末	9,691	△ 1.0	95.8	—
2月末	9,588	△ 2.1	94.4	—
(期 末) 2018年 3月22日	9,531	△ 2.7	94.8	—

(注) 期末基準価額は分配金込み、騰落率は期首比。

投資環境について

(2017. 9. 23 ~ 2018. 3. 22)

海外債券市況

海外債券市況は、期首より、米国ではF O M C (米国連邦公開市場委員会) で2017年内の追加利上げの可能性が示唆されたことなどから国債金利が上昇する一方で、オーストラリアではC P I (消費者物価指数) が弱含み、利上げ観測が後退したことなどをを受けて国債金利は低下しました。12月以降は、米国の税制改革法が成立したことを背景に、世界的に市場のリスク選好度が強まったことなどから、米国の金利は期末にかけて上昇基調となりました。オーストラリアでも金利は上昇しましたが、2018年2月に入って、R B A (オーストラリア準備銀行) のロウ総裁の発言から当面の政策金利の据え置きが意識されたため、金利の低下圧力が強まる展開となりました。また期末にかけては、株価や商品市況が一時調整色を強めるなど、市場にリスク回避姿勢が広がる局面が見られました。

こうした環境下、米ドルや豪ドルなど外貨建ての社債については、期首より縮小基調にあったスプレッド (国債に対する上乗せ金利) が反転し、期末にかけて拡大圧力が強まりました。

前期における「今後の運用方針」

当ファンド

「ダイワ外貨建て海外社債マザーファンド」の受益証券を高位に組み入れるとともに、為替変動リスクを低減するため、為替ヘッジを行いません。

ダイワ外貨建て海外社債マザーファンド

主として海外企業が発行する外貨建ての社債等に投資し、安定した収益の確保および信託財産の着実な成長をめざして運用を行いません。投資対象は、米ドル、ユーロおよび豪ドル建ての社債等とし、債券の格付けは取得時においてB B B格相当以上とします。債券は長期保有を基本としますが、発行企業の信用力等を勘案しつつ適宜銘柄の入れ替えを検討します。

ポートフォリオについて

（2017. 9. 23 ～ 2018. 3. 22）

■当ファンド

「ダイワ外貨建て海外社債マザーファンド」の受益証券を高位に組み入れるとともに、為替変動リスクを低減するため、為替ヘッジを行ないました。

■ダイワ外貨建て海外社債マザーファンド

主として海外企業が発行する外貨建ての社債等に投資し、安定した収益の確保および信託財産の着実な成長をめざして運用を行ないました。業種別では、流動性や利回り面で投資妙味のある金融セクターを軸とするポートフォリオ構成を維持しました。

ベンチマークとの差異について

当ファンドは運用の評価または目標基準となるベンチマークおよび参考指数を設けておりません。

分配金について

当期の1万口当り分配金（税込み）は100円といたしました。

なお、留保益につきましては、運用方針に基づき運用させていただきます。

■収益分配金の計算過程

計算期間末における経費控除後の配当等収益が12,717,350円であり、純資産額の元本超過額がないため、経費控除後の配当等収益12,717,350円（1万口当り137.39円）を分配対象額として、うち9,256,318円（1万口当り100円）を分配金額としております。



今後の運用方針

■当ファンド

「ダイワ外貨建て海外社債マザーファンド」の受益証券を高位に組み入れるとともに、為替変動リスクを低減するため、為替ヘッジを行ないます。

■ダイワ外貨建て海外社債マザーファンド

主として海外企業が発行する外貨建ての社債等に投資し、安定した収益の確保および信託財産の着実な成長をめざして運用を行ないます。投資対象は、米ドル、ユーロおよび豪ドル建ての社債等とし、債券の格付けは取得時においてB B B格相当以上とします。債券は長期保有を基本としますが、発行企業の信用力等を勘案しつつ適宜銘柄の入れ替えを検討します。

1 万口当りの費用の明細

項 目	当 期 (2017. 9. 23~2018. 3. 22)		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
信 託 報 酬	66円	0. 683%	信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率 期中の平均基準価額は9, 736円です。
(投 信 会 社)	(26)	(0. 268)	投信会社分は、ファンドの運用と調査、受託銀行への運用指図、基準価額の計算、目論見書・運用報告書の作成等の対価
(販 売 会 社)	(39)	(0. 402)	販売会社分は、運用報告書等各种書類の送付、口座内での各ファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
(受 託 銀 行)	(1)	(0. 013)	受託銀行分は、運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
売 買 委 託 手 数 料	—	—	売買委託手数料＝期中の売買委託手数料／期中の平均受益権口数 売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
有 価 証 券 取 引 税	—	—	有価証券取引税＝期中の有価証券取引税／期中の平均受益権口数 有価証券取引税は、有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
そ の 他 費 用	2	0. 017	その他費用＝期中のその他費用／期中の平均受益権口数
(保 管 費 用)	(1)	(0. 013)	保管費用は、海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管および資金の送金・資産の移転等に要する費用
(監 査 費 用)	(0)	(0. 004)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
合 計	68	0. 700	

(注1) 期中の費用（消費税のかかるものは消費税を含む）は解約によって受益権口数に変動があるため、項目の概要の簡便法により算出した結果です。なお、売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、このファンドが組み入れているマザーファンドが支払った金額のうち、このファンドに対応するものを含みます。

(注2) 金額欄は各項目ごとに円未満を四捨五入してあります。

(注3) 比率欄は1万口当りのそれぞれの費用金額を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

■売買および取引の状況

親投資信託受益証券の設定・解約状況

(2017年9月23日から2018年3月22日まで)

	設 定		解 約	
	□ 数	金 額	□ 数	金 額
	千口	千円	千口	千円
ダイワ外貨建て海外社債マザーファンド	15,687	18,500	49,500	59,600

(注) 単位未満は切捨て。

■利害関係人との取引状況

当期中における利害関係人との取引はありません。

■組入資産明細表

親投資信託残高

種 類	期 首	当 期 末	
	□ 数	□ 数	評 価 額
	千口	千口	千円
ダイワ外貨建て海外社債マザーファンド	794,594	760,781	853,520

(注) 単位未満は切捨て。

■投資信託財産の構成

2018年3月22日現在

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
	千円	%
ダイワ外貨建て海外社債マザーファンド	853,520	96.1
コール・ローン等、その他	34,871	3.9
投資信託財産総額	888,391	100.0

(注1) 評価額の単位未満は切捨て。

(注2) 外貨建資産は、期末の時価を対顧客直物電信売買相場の中値をもとに投資信託協会が定める計算方法により算出されるレートで邦貨換算したものです。なお、3月22日における邦貨換算レートは、1アメリカ・ドル=105.63円、1オーストラリア・ドル=82.05円です。

(注3) ダイワ外貨建て海外社債マザーファンドにおいて、当期末における外貨建純資産(1,018,541千円)の投資信託財産総額(1,023,297千円)に対する比率は、99.5%です。

■資産、負債、元本および基準価額の状況

2018年3月22日現在

項 目	当 期 末
(A) 資産	1,734,896,664円
コール・ローン等	27,266,801
ダイワ外貨建て海外社債マザーファンド(評価額)	853,520,229
未収入金	854,109,634
(B) 負債	861,958,610
未払金	846,505,200
未払収益分配金	9,256,318
未払信託報酬	6,159,872
その他未払費用	37,220
(C) 純資産総額(A-B)	872,938,054
元本	925,631,838
次期繰越損益金	△ 52,693,784
(D) 受益権総口数	925,631,838口
1万口当り基準価額(C/D)	9,431円

* 当期末の計算口数当りの純資産額は9,431円です。

* 当期末の純資産総額が元本額を下回っており、その差額は52,693,784円です。

■損益の状況

当 期 自2017年9月23日 至2018年3月22日

項 目	当 期
(A) 配当等収益	△ 2,320円
支払利息	△ 2,320
(B) 有価証券売買損益	57,620,526
売買益	80,666,794
売買損	△ 23,046,268
(C) 有価証券評価差損益	△ 75,620,208
(D) 信託報酬等	△ 6,370,749
(E) 当期損益金(A+B+C+D)	△ 24,372,751
(F) 前期繰越損益金	△ 20,505,196
(G) 解約差損益金	1,440,481
(H) 合計(E+F+G)	△ 43,437,466
(I) 収益分配金	△ 9,256,318
次期繰越損益金(H+I)	△ 52,693,784

(注1) 有価証券評価差損益は、有価証券の期末の評価損益と期首との差額です。

(注2) 信託報酬等には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しております。

(注3) 解約差損益金とは、一部解約時の解約価額と元本との差額をいい、元本を下回る場合は利益として、上回る場合は損失として処理されます。

(注4) 収益分配金の計算過程は5ページをご参照ください。

収 益 分 配 金 の お 知 ら せ	
1 万 口 当 り 分 配 金 （ 税 込 み ）	100円

分配金の課税上の取扱いについて

- ・分配金については、20.315%（所得税15%、復興特別所得税0.315%および地方税5%）の税率による源泉徴収が行なわれ、申告不要制度が適用されます。なお、確定申告を行ない、申告分離課税または総合課税（配当控除の適用はありません。）を選択することもできます。
- ・法人の受益者の場合、税率が異なります。
- ・税法が改正された場合等には、上記の内容が変更になることがあります。くわしくは、販売会社にお問い合わせください。
- ・課税上の取扱いの詳細につきましては、税務専門家等にご確認されることをお勧めします。

為替ヘッジなし

設定以来の運用実績

決算期	(分配落)	基準価額			受益者 利益回り	公社債 組入比率	債券先物 比率	元本 残存率
		税込 分配 金	期中 騰落 額	期中 騰落 率				
設定 (2014年3月31日)	円 10,000	円 —	円 —	% —	% —	% —	% —	% 100.0
1期末 (2014年9月22日)	10,587	135	722	7.2	15.0	97.3	—	99.1
2期末 (2015年3月23日)	11,325	165	903	8.5	16.6	96.5	—	88.4
3期末 (2015年9月24日)	10,771	175	△ 379	△ 3.3	8.4	98.0	—	27.0
4期末 (2016年3月22日)	10,193	160	△ 418	△ 3.9	4.2	95.2	—	23.0
5期末 (2016年9月23日)	9,495	100	△ 598	△ 5.9	0.9	92.8	—	22.1
6期末 (2017年3月22日)	10,211	130	846	8.9	3.6	97.3	—	20.5
7期末 (2017年9月22日)	10,467	140	396	3.9	4.2	97.6	—	17.8
8期末 (2018年3月22日)	9,545	100	△ 822	△ 7.9	1.6	96.5	—	17.5

(注1) 基準価額の騰落額および騰落率は分配金込み。

(注2) 公社債および債券先物の組入比率は、マザーファンドの組入比率を当ファンドベースに換算したものを含みます。

(注3) 公社債組入比率は新株予約権付社債券（転換社債券）を除きます。

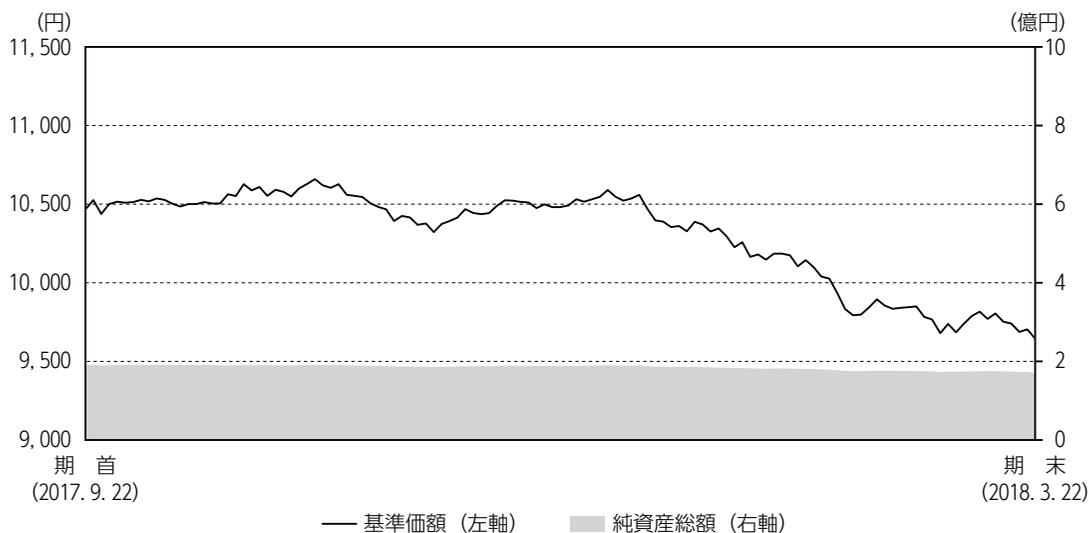
(注4) 債券先物比率は買建比率－売建比率です。

(注5) 当ファンドは、ファンドの運用方針に対して適切な比較指数がないため、ベンチマークおよび参考指数を記載しておりません。



運用経過

基準価額等の推移について



(注) 期末の基準価額は分配金込みです。

■ 基準価額・騰落率

期首：10,467円

期末：9,545円（分配金100円）

騰落率：△7.9%（分配金込み）

■ 基準価額の変動要因

「ダイワ外貨建て海外社債マザーファンド」の受益証券を通じて、主として海外企業が発行する外貨建ての社債に投資した結果、保有債券からの利息収入はプラスに寄与しましたが、社債金利の上昇（債券価格の下落）に加え、米ドルおよび豪ドルが対円で下落したことなどを反映し、基準価額は下落しました。くわしくは「投資環境について」をご参照ください。

ダイワ外貨建て海外社債ファンド2014-03 (為替ヘッジなし)

年 月 日	基 準 価 額		公 社 債 組 入 比 率	債 券 先 物 比 率
	円	騰 落 率 %		
(期 首) 2017年 9月22日	10,467	—	97.6	—
9月末	10,510	0.4	98.2	—
10月末	10,549	0.8	98.3	—
11月末	10,393	△ 0.7	96.6	—
12月末	10,547	0.8	98.1	—
2018年 1月末	10,147	△ 3.1	97.7	—
2月末	9,850	△ 5.9	96.8	—
(期 末) 2018年 3月22日	9,645	△ 7.9	96.5	—

(注) 期末基準価額は分配金込み、騰落率は期首比。

■ 海外債券市況

海外債券市況は、期首より、米国ではF O M C（米国連邦公開市場委員会）で2017年内の追加利上げの可能性が示唆されたことなどから国債金利が上昇する一方で、オーストラリアではC P I（消費者物価指数）が弱含み、利上げ観測が後退したことなどをを受けて国債金利は低下しました。12月以降は、米国の税制改革法が成立したことを背景に、世界的に市場のリスク選好度が強まったことなどから、米国の金利は期末にかけて上昇基調となりました。オーストラリアでも金利は上昇しましたが、2018年2月に入って、R B A（オーストラリア準備銀行）のロウ総裁の発言から当面の政策金利の据え置きが意識されたため、金利の低下圧力が強まる展開となりました。また期末にかけては、株価や商品市況が一時調整色を強めるなど、市場にリスク回避姿勢が広がる局面が見られました。

こうした環境下、米ドルや豪ドルなど外貨建ての社債については、期首より縮小基調にあったスプレッド（国債に対する上乗せ金利）が反転し、期末にかけて拡大圧力が強まりました。

■ 為替相場

米ドルおよび豪ドルは対円で下落しました。米ドル円はF R B（米国連邦準備制度理事会）がバランスシートの縮小開始を決定し、2017年内の追加利上げ実施を示唆したことなどから、2017年末まで底堅く推移しました。豪ドル円はオーストラリアのC P Iが市場予想を下回ったことなどをを受けて軟調に推移したものの、12月以降は、米国の税制改革法が成立したことを背景に市場のリスク選好度が強まったことなどから上昇しました。2018年に入ると、米国のムニューシン財務長官による米ドル安容認発言から米ドルが下落したことに加え、日本の金融正常化観測の高まりが円高の材料となり、米ドルおよび豪ドルは対円で下落しました。また2月以降も、米国金利の上昇や米中貿易戦争などを警戒し株価が急落する中で市場のリスク回避姿勢が強まったことにより、米ドルおよび豪ドルは対円で下落が続きました。

前期における「今後の運用方針」

■当ファンド

「ダイワ外貨建て海外社債マザーファンド」の受益証券を高位に組み入れます。

■ダイワ外貨建て海外社債マザーファンド

主として海外企業が発行する外貨建ての社債等に投資し、安定した収益の確保および信託財産の着実な成長をめざして運用を行ないます。投資対象は、米ドル、ユーロおよび豪ドル建ての社債等とし、債券の格付けは取得時においてB B B格相当以上とします。債券は長期保有を基本としますが、発行企業の信用力等を勘案しつつ適宜銘柄の入れ替えを検討します。

ポートフォリオについて

(2017. 9. 23 ~ 2018. 3. 22)

■当ファンド

「ダイワ外貨建て海外社債マザーファンド」の受益証券を高位に組み入れました。

■ダイワ外貨建て海外社債マザーファンド

主として海外企業が発行する外貨建ての社債等に投資し、安定した収益の確保および信託財産の着実な成長をめざして運用を行ないました。業種別では、流動性や利回り面で投資妙味のある金融セクターを軸とするポートフォリオ構成を維持しました。

ベンチマークとの差異について

当ファンドは運用の評価または目標基準となるベンチマークおよび参考指数を設けておりません。

分配金について

当期の1万口当り分配金（税込み）は100円といたしました。

なお、留保益につきましては、運用方針に基づき運用させていただきます。

■収益分配金の計算過程

計算期間末における経費控除後の配当等収益が2,629,353円であり、純資産額の元本超過額がないため、経費控除後の配当等収益2,629,353円（1万口当り147.13円）を分配対象額として、うち1,787,090円（1万口当り100円）を分配金額としております。



今後の運用方針

■当ファンド

「ダイワ外貨建て海外社債マザーファンド」の受益証券を高位に組み入れます。

■ダイワ外貨建て海外社債マザーファンド

主として海外企業が発行する外貨建ての社債等に投資し、安定した収益の確保および信託財産の着実な成長をめざして運用を行ないます。投資対象は、米ドル、ユーロおよび豪ドル建ての社債等とし、債券の格付けは取得時においてB B B格相当以上とします。債券は長期保有を基本としますが、発行企業の信用力等を勘案しつつ適宜銘柄の入れ替えを検討します。

1 万口当りの費用の明細

項 目	当 期 (2017. 9. 23~2018. 3. 22)		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
信 託 報 酬	70円	0. 683%	信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率 期中の平均基準価額は10, 301円です。
(投 信 会 社)	(28)	(0. 268)	投信会社分は、ファンドの運用と調査、受託銀行への運用指図、基準価額の計算、目論見書・運用報告書の作成等の対価
(販 売 会 社)	(41)	(0. 402)	販売会社分は、運用報告書等各种書類の送付、口座内での各ファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
(受 託 銀 行)	(1)	(0. 013)	受託銀行分は、運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
売 買 委 託 手 数 料	—	—	売買委託手数料＝期中の売買委託手数料／期中の平均受益権口数 売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
有 価 証 券 取 引 税	—	—	有価証券取引税＝期中の有価証券取引税／期中の平均受益権口数 有価証券取引税は、有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
そ の 他 費 用	2	0. 017	その他費用＝期中のその他費用／期中の平均受益権口数
(保 管 費 用)	(1)	(0. 013)	保管費用は、海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管および資金の送金・資産の移転等に要する費用
(監 査 費 用)	(0)	(0. 004)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
合 計	72	0. 700	

(注1) 期中の費用（消費税のかかるものは消費税を含む）は解約によって受益権口数に変動があるため、項目の概要の簡便法により算出した結果です。なお、売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、このファンドが組み入れているマザーファンドが支払った金額のうち、このファンドに対応するものを含みます。

(注2) 金額欄は各項目ごとに円未満を四捨五入してあります。

(注3) 比率欄は1万口当りのそれぞれの費用金額を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

ダイワ外貨建て海外社債ファンド2014-03 (為替ヘッジなし)

■売買および取引の状況

親投資信託受益証券の設定・解約状況

(2017年9月23日から2018年3月22日まで)

	設 定		解 約	
	□ 数	金 額	□ 数	金 額
	千口	千円	千口	千円
ダイワ外貨建て海外社債マザーファンド	—	—	5,621	6,600

(注) 単位未満は切捨て。

■利害関係人との取引状況

当期中における利害関係人との取引はありません。

■組入資産明細表

親投資信託残高

種 類	期 首	当 期 末	
	□ 数	□ 数	評 価 額
	千口	千口	千円
ダイワ外貨建て海外社債マザーファンド	156,921	151,300	169,743

(注) 単位未満は切捨て。

■投資信託財産の構成

2018年3月22日現在

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
	千円	%
ダイワ外貨建て海外社債マザーファンド	169,743	97.8
コール・ローン等、その他	3,878	2.2
投資信託財産総額	173,622	100.0

(注1) 評価額の単位未満は切捨て。

(注2) 外貨建資産は、期末の時価を対顧客直物電信売買相場の仲値をもとに投資信託協会が定める計算方法により算出されるレートで邦貨換算したものです。なお、3月22日における邦貨換算レートは、1アメリカ・ドル=105.63円、1オーストラリア・ドル=82.05円です。

(注3) ダイワ外貨建て海外社債マザーファンドにおいて、当期末における外貨建純資産(1,018,541千円)の投資信託財産総額(1,023,297千円)に対する比率は、99.5%です。

■資産、負債、元本および基準価額の状況

2018年3月22日現在

項 目	当 期 末
(A) 資産	173,622,634円
コール・ローン等	3,878,955
ダイワ外貨建て海外社債マザーファンド(評価額)	169,743,679
(B) 負債	3,053,452
未払収益分配金	1,787,090
未払信託報酬	1,258,997
その他未払費用	7,365
(C) 純資産総額(A-B)	170,569,182
元本	178,709,038
次期繰越損益金	△ 8,139,856
(D) 受益権総口数	178,709,038口
1万口当り基準価額(C/D)	9,545円

* 当期末の計算口数当りの純資産額は9,545円です。

* 当期末の純資産総額が元本額を下回っており、その差額は8,139,856円です。

■損益の状況

当期 自2017年9月23日 至2018年3月22日

項 目	当 期
(A) 配当等収益	△ 204円
支払利息	△ 204
(B) 有価証券売買損益	979,000
売買益	979,000
(C) 有価証券評価差損益	△ 14,400,112
(D) 信託報酬等	△ 1,273,049
(E) 当期損益金(A+B+C+D)	△ 14,694,365
(F) 前期繰越損益金	8,504,345
(G) 解約差損益金	△ 162,746
(H) 合計(E+F+G)	△ 6,352,766
(I) 収益分配金	△ 1,787,090
次期繰越損益金(H+I)	△ 8,139,856

(注1) 有価証券評価差損益は、有価証券の期末の評価損益と期首との差額です。

(注2) 信託報酬等には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しております。

(注3) 解約差損益金とは、一部解約時の解約価額と元本との差額をいい、元本を下回る場合は利益として、上回る場合は損失として処理されます。

(注4) 収益分配金の計算過程は15ページをご参照ください。

収 益 分 配 金 の お 知 ら せ	
1 万 口 当 り 分 配 金 (税 込 み)	100円

分配金の課税上の取扱いについて

- ・分配金については、20.315%（所得税15%、復興特別所得税0.315%および地方税5%）の税率による源泉徴収が行なわれ、申告不要制度が適用されます。なお、確定申告を行ない、申告分離課税または総合課税（配当控除の適用はありません。）を選択することもできます。
- ・法人の受益者の場合、税率が異なります。
- ・税法が改正された場合等には、上記の内容が変更になることがあります。くわしくは、販売会社にお問い合わせください。
- ・課税上の取扱いの詳細につきましては、税務専門家等にご確認されることをお勧めします。

ダイワ外貨建て海外社債マザーファンド

運用報告書 第8期 (決算日 2018年3月22日)

(計算期間 2017年9月23日～2018年3月22日)

ダイワ外貨建て海外社債マザーファンドの第8期にかかる運用状況をご報告申し上げます。

★当ファンドの仕組みは次の通りです。

運用方針	安定した収益の確保と信託財産の着実な成長をめざして運用を行ないます。
主要投資対象	米ドル、ユーロおよび豪ドル建ての社債等
運用方法	<p>①主として、海外企業が発行する外貨建ての社債等に投資することにより、安定した収益の確保と信託財産の着実な成長をめざして運用を行ないます。</p> <p>②運用にあたっては、以下の点に留意します。</p> <p>イ. 投資対象は、主として海外企業が発行する米ドル、ユーロおよび豪ドル建ての社債等とします。</p> <p>ロ. 流動性を確保するため、米ドル、ユーロおよび豪ドル建ての国債、州債およびコマーシャル・ペーパー等に投資することがあります。</p> <p>ハ. 債券の格付けは、取得時においてBBB格相当以上（ムーディーズでBaa3以上またはS&PでBBB-以上もしくはフィッチでBBB-以上）とします。</p> <p>ニ. 金利リスク対応のため、米ドル、ユーロおよび豪ドル建ての債券先物取引を利用することがあります。</p> <p>③為替変動リスクを回避するための為替ヘッジは原則として行ないません。</p>
株式組入制限	純資産総額の10%以下

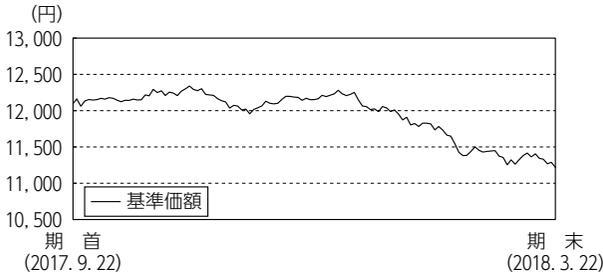
大和投資信託

Daiwa Asset Management

東京都千代田区丸の内一丁目9番1号

<http://www.daiwa-am.co.jp/>

■当期中の基準価額の推移



年 月 日	基準 価 額		公 社 債 組 入 比 率	債 券 先 物 比 率
	円	%		
(期 首) 2017年 9月22日	12,093	—	98.1	—
9 月 末	12,146	0.4	98.7	—
10 月 末	12,207	0.9	98.6	—
11 月 末	12,039	△ 0.4	96.8	—
12 月 末	12,232	1.1	98.2	—
2018年 1 月 末	11,782	△ 2.6	97.7	—
2 月 末	11,450	△ 5.3	96.7	—
(期 末) 2018年 3月22日	11,219	△ 7.2	96.9	—

(注1) 騰落率は期首比。
 (注2) 公社債組入比率は新株予約権付社債券(転換社債券)を除きます。
 (注3) 債券先物比率は買建比率-売建比率です。
 (注4) 当ファンドは、ファンドの運用方針に対して適切な比較指数がないため、ベンチマークおよび参考指数を記載しておりません。

《運用経過》

◆基準価額等の推移について

【基準価額・騰落率】
 期首：12,093円 期末：11,219円 騰落率：△7.2%
 【基準価額の主な変動要因】

主として海外企業が発行する外貨建ての社債に投資した結果、保有債券からの利息収入はプラスに寄与しましたが、社債金利の上昇(債券価格の下落)に加え、米ドルおよび豪ドルが対円で下落したことなどを反映し、基準価額は下落しました。

◆投資環境について

○海外債券市場

海外債券市場は、期首より、米国ではFOMC(米連邦公開市場委員会)で2017年内の追加利上げの可能性が示唆されたことなどから国債金利が上昇する一方で、オーストラリアではCPI(消費者物価指数)が弱含み、利上げ観測が後退したことを受けて国債金利は低下しました。12月以降は、米国の税制改革法が成立したことを背景に、世界的に市場のリスク選好度が強まったことなどから、米国の金利は期末にかけて上昇基調となりました。オーストラリアでも金利は上昇しましたが、2018年2月に入って、RBA(オーストラリア準備銀行)のロウ総裁の発言から当面の政策金利の据え置きが意識されたため、金利の低下圧力が強まる展開となりました。

ました。また期末にかけては、株価や商品市況が一時調整色を強めるなど、市場にリスク回避姿勢が広がる局面が見られました。こうした環境下、米ドルや豪ドルなど外貨建ての社債については、期首より縮小基調にあったスプレッド(国債に対する上乗せ金利)が反転し、期末にかけて拡大圧力が強まりました。

○為替相場

米ドルおよび豪ドルは対円で下落しました。米ドル円はFRB(米連邦準備制度理事会)がバランスシートの縮小開始を決定し、2017年内の追加利上げ実施を示唆したことなどから、2017年末まで底堅く推移しました。豪ドル円はオーストラリアのCPIが市場予想を下回ったことなどを受けて軟調に推移したものの、12月以降は、米国の税制改革法が成立したことを背景に市場のリスク選好度が強まったことなどから上昇しました。2018年に入ると、米国のムニューシン財務長官による米ドル安容認発言から米ドルが下落したことに加え、日本の金融正常化観測の高まりが円高の材料となり、米ドルおよび豪ドルは対円で下落しました。また2月以降も、米国金利の上昇や米中貿易戦争などを警戒し株価が急落する中で市場のリスク回避姿勢が強まったことにより、米ドルおよび豪ドルは対円での下落が続きました。

◆前期における「今後の運用方針」

主として海外企業が発行する外貨建ての社債等に投資し、安定した収益の確保および信託財産の着実な成長をめざして運用を行ないます。投資対象は、米ドル、ユーロおよび豪ドル建ての社債等とし、債券の格付けは取得時においてBBB格相当以上とします。債券は長期保有を基本としますが、発行企業の信用力等を勘案しつつ適宜銘柄の入れ替えを検討します。

◆ポートフォリオについて

主として海外企業が発行する外貨建ての社債等に投資し、安定した収益の確保および信託財産の着実な成長をめざして運用を行ないました。業種別では、流動性及り利回り面で投資効力のある金融セクターを軸とするポートフォリオ構成を維持しました。

◆ベンチマークとの差異について

当ファンドは運用の評価または目標基準となるベンチマークおよび参考指数を設けておりません。

《今後の運用方針》

主として海外企業が発行する外貨建ての社債等に投資し、安定した収益の確保および信託財産の着実な成長をめざして運用を行ないます。投資対象は、米ドル、ユーロおよび豪ドル建ての社債等とし、債券の格付けは取得時においてBBB格相当以上とします。債券は長期保有を基本としますが、発行企業の信用力等を勘案しつつ適宜銘柄の入れ替えを検討します。

ダイワ外貨建て海外社債マザーファンド

■1万口当りの費用の明細

項 目	当 期
売買委託手数料	—円
有価証券取引税	—
その他費用 (保管費用)	2 (2)
合 計	2

(注1) 期中の費用(消費税のかかるものは消費税を含む)は追加、解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。費用の項目および算出法については前掲の「1万口当りの費用の明細」の項目の概要をご参照ください。

(注2) 各項目ごとに円未満を四捨五入してあります。

■売買および取引の状況

公 社 債

(2017年9月23日から2018年3月22日まで)

		買付額	売付額
外 国	オーストラリア 社債券	千オーストラリア・ドル 831	千オーストラリア・ドル 1,229 (—)

(注1) 金額は受渡し代金(経過利子分は含まれておりません)。

(注2) ()内は償還による減少分で、上段の数字には含まれておりません。

(注3) 社債券には新株予約権付社債券(転換社債券)は含まれておりません。

(注4) 単位未満は切捨て。

■主要な売買銘柄

公 社 債

(2017年9月23日から2018年3月22日まで)

当 期		期	
買 付		売 付	
銘 柄	金 額	銘 柄	金 額
National Australia Bank Ltd (オーストラリア) 4.375% 2026/9/21	千円 70,547	National Australia Bank Ltd (オーストラリア) 2.57% 2018/11/8 Aurizon Network Pty Ltd (オーストラリア) 5.75% 2020/10/28	千円 77,077 27,668

(注1) 金額は受渡し代金(経過利子分は含まれておりません)。

(注2) 単位未満は切捨て。

■組入資産明細表

(1)外国(外貨建)公社債(通貨別)

作 成 期	区 分	額 面 金 額	当 期		組入比率	うちBB格 以下組入 率	残存期間別組入比率		
			評 価 額				5年以上	2年以上	2年未満
			外 貨 建 金 額	邦 貨 換 算 金 額					
	アメリカ	千アメリカ・ドル 7,100	千アメリカ・ドル 7,435	千円 785,391	% 76.8	% —	% 58.0	% 18.8	% —
	オーストラリア	千オーストラリア・ドル 2,400	千オーストラリア・ドル 2,519	206,691	20.2	—	6.7	9.4	4.1
	合 計	—	—	992,083	96.9	—	64.6	28.2	4.1

(注1) 邦貨換算金額は、期末の時価を対顧客直物電信売買相場の仲値をもとに投資信託協会が定める計算方法により算出されるレートで邦貨換算したものです。

(注2) 組入比率は、純資産総額に対する評価額の割合。

(注3) 額面金額、評価額の単位未満は切捨て。

(注4) 評価額および格付情報については金融商品取引業者、価格情報会社等よりデータを入手しています。

(2)外国 (外貨建) 公社債 (銘柄別)

区 分		銘 柄	種 類	年 利 率	額 面 金 額	評 価 額		償還年月日
						外 貨 建 金 額	邦 貨 換 算 金 額	
アメリカ		MetLife Inc	社債券	3.0000	千アメリカ・ドル 200	千アメリカ・ドル 191	千円 20,238	2025/03/01
		FedEx Corp	社債券	4.9000	300	320	33,880	2024/01/15
		Hewlett-Packard Co	社債券	4.6500	500	527	55,749	2021/12/09
		FORD MOTOR CR. CO.	社債券	4.2500	500	506	53,456	2022/09/20
		Anheuser-Busch InBev Finance Inc	社債券	2.6250	300	288	30,481	2023/01/17
		Wal-Mart Stores Inc	社債券	5.8750	300	354	37,495	2027/04/05
		Verizon Communications Inc	社債券	4.1500	300	305	32,301	2024/03/15
		HOME DEPOT INC.	社債券	3.7500	200	205	21,657	2024/02/15
		CITIGROUP INC.	社債券	5.5000	500	541	57,208	2025/09/13
		Wells Fargo & Co	社債券	4.1250	500	506	53,488	2023/08/15
		Bank One Corp	社債券	7.7500	500	607	64,201	2025/07/15
		GOLDMAN SACHS GROUP INC.	社債券	4.0000	500	504	53,301	2024/03/03
		BPCE SA	社債券	5.1500	500	521	55,035	2024/07/21
		RABOBANK NEDERLAND	社債券	4.6250	500	517	54,639	2023/12/01
		GlaxoSmithKline Capital PLC	社債券	2.8500	500	494	52,236	2022/05/08
		Santander UK PLC	社債券	5.0000	500	515	54,467	2023/11/07
		Telefonica Emisiones SAU	社債券	4.5700	500	525	55,552	2023/04/27
通貨小計	銘柄数 金 額	17銘柄			7,100	7,435	785,391	
オーストラリア		National Australia Bank Ltd	社債券	4.3750	千オーストラリア・ドル 800	千オーストラリア・ドル 829	68,090	2026/09/21
		Brisbane Airport Corp Pty Ltd	社債券	6.0000	500	535	43,927	2020/10/21
		Incitec Pivot Ltd	社債券	5.7500	500	512	42,050	2019/02/21
		Aurizon Network Pty Ltd	社債券	5.7500	600	641	52,622	2020/10/28
通貨小計	銘柄数 金 額	4銘柄			2,400	2,519	206,691	
合 計	銘柄数 金 額	21銘柄					992,083	

(注1) 邦貨換算金額は、期末の時価を対顧客直物電信売買相場の仲値をもとに投資信託協会が定める計算方法により算出されるレートで邦貨換算したものです。
(注2) 額面金額、評価額の単位未満は切捨て。

ダイワ外貨建て海外社債マザーファンド

■投資信託財産の構成

2018年3月22日現在

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
公社債	992,083	96.9
コール・ローン等、その他	31,214	3.1
投資信託財産総額	1,023,297	100.0

(注1) 評価額の単位未満は切捨て。

(注2) 外貨建資産は、期末の時価を対顧客直物電信売買相場の仲値をもとに投資信託協会が定める計算方法により算出されるレートで邦貨換算したものです。なお、3月22日における邦貨換算レートは、1アメリカ・ドル=105.63円、1オーストラリア・ドル=82.05円です。

(注3) 当期末における外貨建純資産(1,018,541千円)の投資信託財産総額(1,023,297千円)に対する比率は、99.5%です。

■資産、負債、元本および基準価額の状況

2018年3月22日現在

項 目	当 期 末
(A)資産	1,023,297,705円
コール・ローン等	21,927,723
公社債(評価額)	992,083,271
未取利息	9,286,711
(B)負債	34
その他未払費用	34
(C)純資産総額(A-B)	1,023,297,671
元本	912,081,210
次期繰越損益金	111,216,461
(D)受益権総口数	912,081,210口
1万口当り基準価額(C/D)	11,219円

*期首における元本額は951,515,296円、当期中における追加設定元本額は15,687,592円、同解約元本額は55,121,678円です。

*当期末における当マザーファンドを投資対象とする投資信託の元本額は、ダイワ外貨建て海外社債ファンド2014-03(為替ヘッジあり)760,781,023円、ダイワ外貨建て海外社債ファンド2014-03(為替ヘッジなし)151,300,187円です。

*当期末の計算口数当りの純資産額は11,219円です。

■損益の状況

当期 自2017年9月23日 至2018年3月22日

項 目	当 期
(A)配当等収益	22,355,189円
受取利息	22,356,470
支払利息	△ 1,281
(B)有価証券売買損益	△ 101,866,308
売買益	244,847
売買損	△ 102,111,155
(C)その他費用	△ 146,088
(D)当期損益金(A+B+C)	△ 79,657,207
(E)前期繰越損益金	199,139,582
(F)解約差損益金	△ 11,078,322
(G)追加信託差損益金	2,812,408
(H)合計(D+E+F+G)	111,216,461
次期繰越損益金(H)	111,216,461

(注1) 解約差損益金とは、一部解約時の解約価額と元本との差額をいい、元本を下回る場合は利益として、上回る場合は損失として処理されます。

(注2) 追加信託差損益金とは、追加信託金と元本との差額をいい、元本を下回る場合は損失として、上回る場合は利益として処理されます。